

## 新らくらく軒面戸 和形 1号 (多機能タイプ)

- 1 鼻棧に施工
- 2 寸法調整 (切り方)
- 3 瓦座に施工
- 4 寸法調整 (折り曲げ)
- 5 補強施工法
- 6 水切として施工
- 7 瓦施工後の後付け
- 8 注意点

この施工説明書は、日本ルーフ・フロアーのホームページ  
<http://roof.sub.jp> → チラシ等ダウンロードから印刷できます。

\*写真は分かりやすいように、下葺きを省略して撮影してあります。

## 1 鼻棧に施工

鼻棧に横から釘打ちします。

鼻棧の高さに関係なく施工できます。

釘は、4～5本で十分です。



瓦の重みで、自然に曲がります。

面戸先端が、瓦の垂れに接する必要はありません。

軒瓦が安定するので施工がラクになります。



垂れや万じゅうとの隙間は、  
下からほとんど見えません。

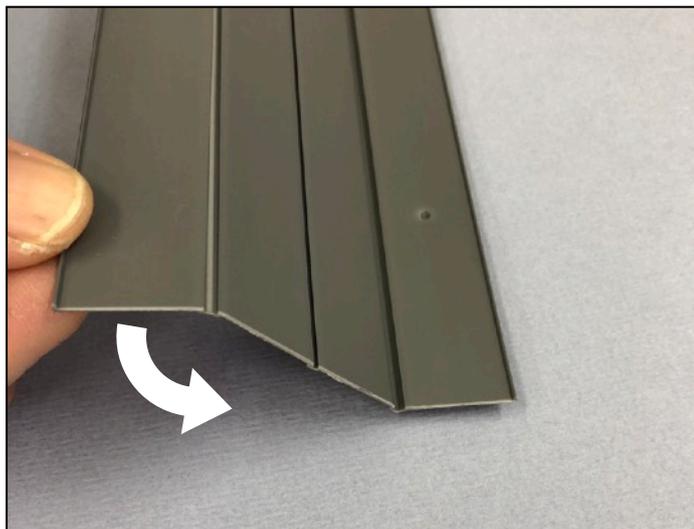
綺麗な仕上がりです。



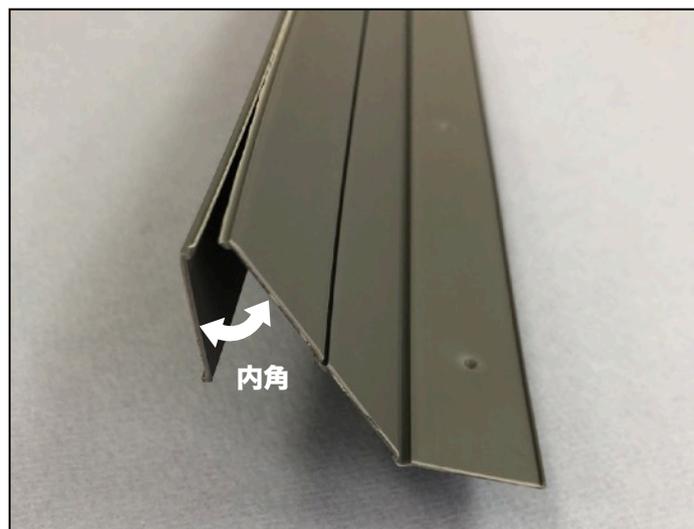
## 2 寸法調整 (切り方)

\* 瓦座が軒先に近い場合、寸法の調整が必要です。

ヒンジの凸方向に、折り曲げます。  
逆方向に折り曲げては切断できませんので、  
注意してください。



気温20°Cで、内角 約10度まで  
気温 -5°Cで、内角 約90度まで  
折り曲げれば切断できます。



気温が高い環境では、折り曲げた後に、  
軽く引っ張れば、切り取りできます。

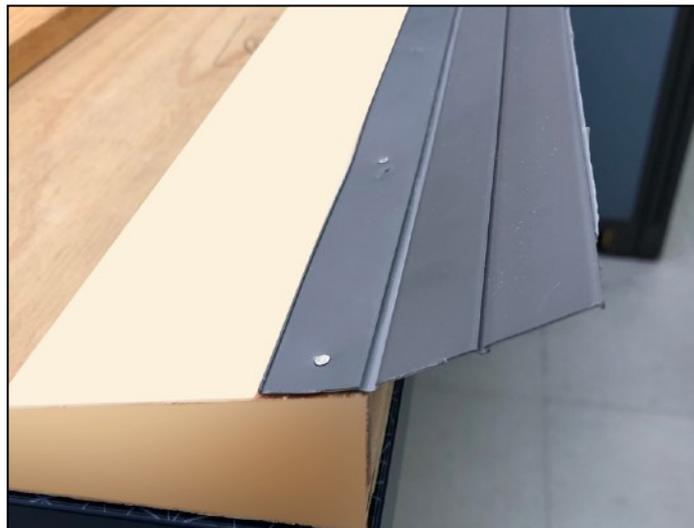


### 3 瓦座に施工

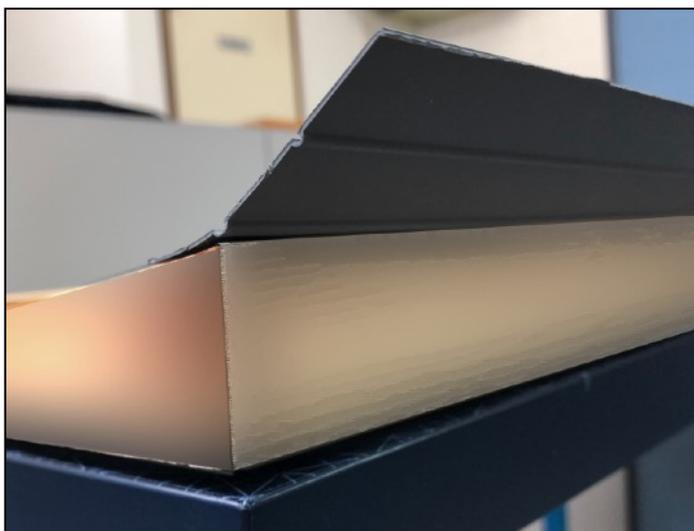
瓦座の上から釘を打ちます。

強度的には、釘は、4～5本で十分です。

仕上がりをきれいにするには、もう少し多めの釘打ちが良いでしょう。



瓦座の意匠を邪魔せず綺麗に仕上がります。



瓦の重みで自然に曲がります。

軒瓦が安定するので施工がラクになります。

第1ヒンジは、気温  $-5^{\circ}\text{C}$  で瓦をのせても、亀裂は入りません。



#### 4 寸法調整 (折り曲げ)

\* 軒の出が60ミリの場合等、軒先形状や瓦の形状によっては切り取り後に、さらに寸法を微調整する必要があります。

瓦座に取り付けます。



ヒンジの部分を凹方向に、曲げておきます。



曲げてから、瓦をのせます。



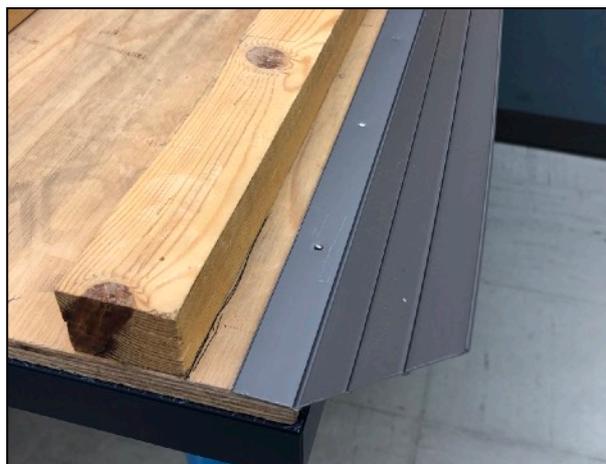
横打ちの場合は、こうなります。



## 5 補強施工法

\* 鳥の侵入を防止しつつ耐震強度を上げ、雪害の軽減にもなる施工法です。

軒先に施工します。

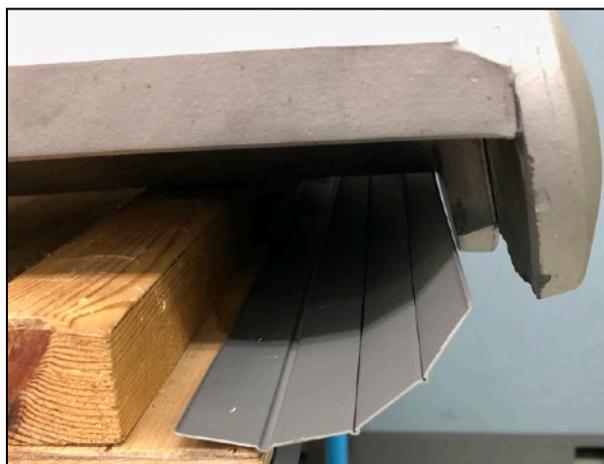


面戸が、少し折れ曲がる程度の軒の出にします。

瓦座の下に施工



鼻棧の前に施工



軒先の耐荷重は、約3kg増えます。

(当社ホームページの「施工方法の説明」の「加重テスト」を参照してください。)

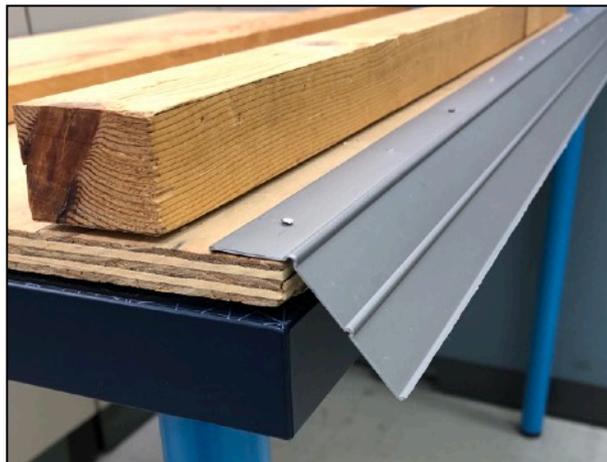
すっきりと仕上がり、瓦も安定します。



## 6 水切として施工

下方方向に向けて施工をすれば、水切りとしてだけでも、使用できます。

(写真は分かりやすいように、下葺きを省略して撮影しました。)



耐久性に優れた塩化ビニール製なので、金属製の水切りよりも、長期間の使用に耐えられます。(耐用年数50年)

軒先の形状によって、長さや角度を調整できます。



らくらく面戸 Lレールが、取付け可能です。



\*写真は分かりやすいように、下葺きを省略して撮影してあります。

## 7 瓦施工後の後付け

\* 瓦の施工後に、瓦座に釘を、横打ちで取り付ける場合。

面戸を釘打ちする瓦座を確認します。



野地と面戸下端をあわせてから、面戸を瓦の方向に上げます。



面戸先端が、瓦の垂れに触れないか、確認します。



面戸 1本に、3～4本の釘を打ちます。



面戸が瓦の垂れに接する場合は、面戸を切断したり、折り曲げて、調節します。



8 注意点

8-1 面戸つなぎ目

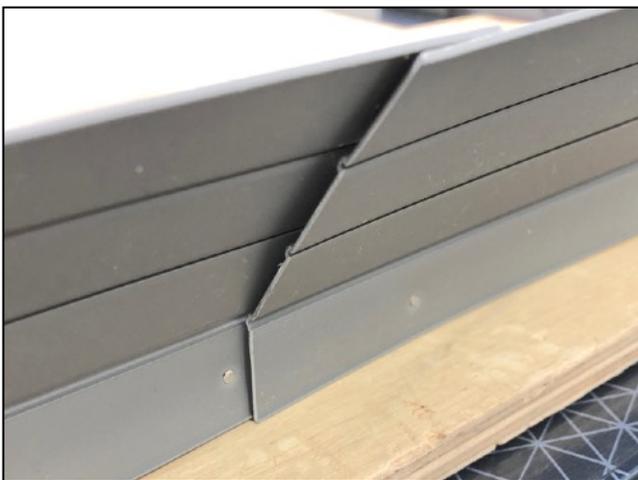
面戸どうしのつなぎ目は、ほとんどずれません。



万十の下部だけ、少しズレが生じます。



軒から棟に向かって、右の面戸を手前にして重ねます。



ズレは生じません。



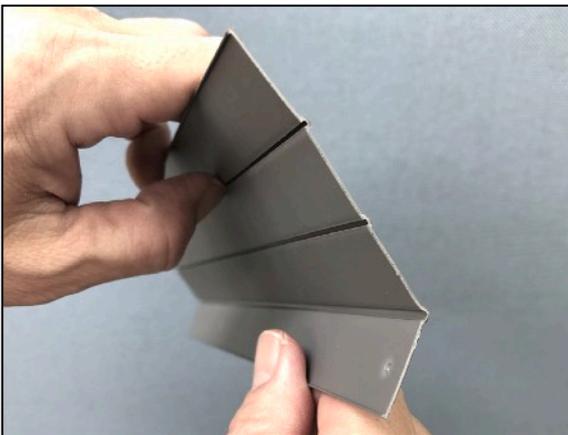
8 注意点 (続き)

8-2 鼻棧に施工



屋根の上から釘打ちする場合、面戸をまっすぐに立てると、釘打ちが容易になります。

8-3 折り曲げ



ヒンジ部を、4～5回折り曲げると、亀裂が入ります。 unnecessaryな折り曲げはしないでください。

